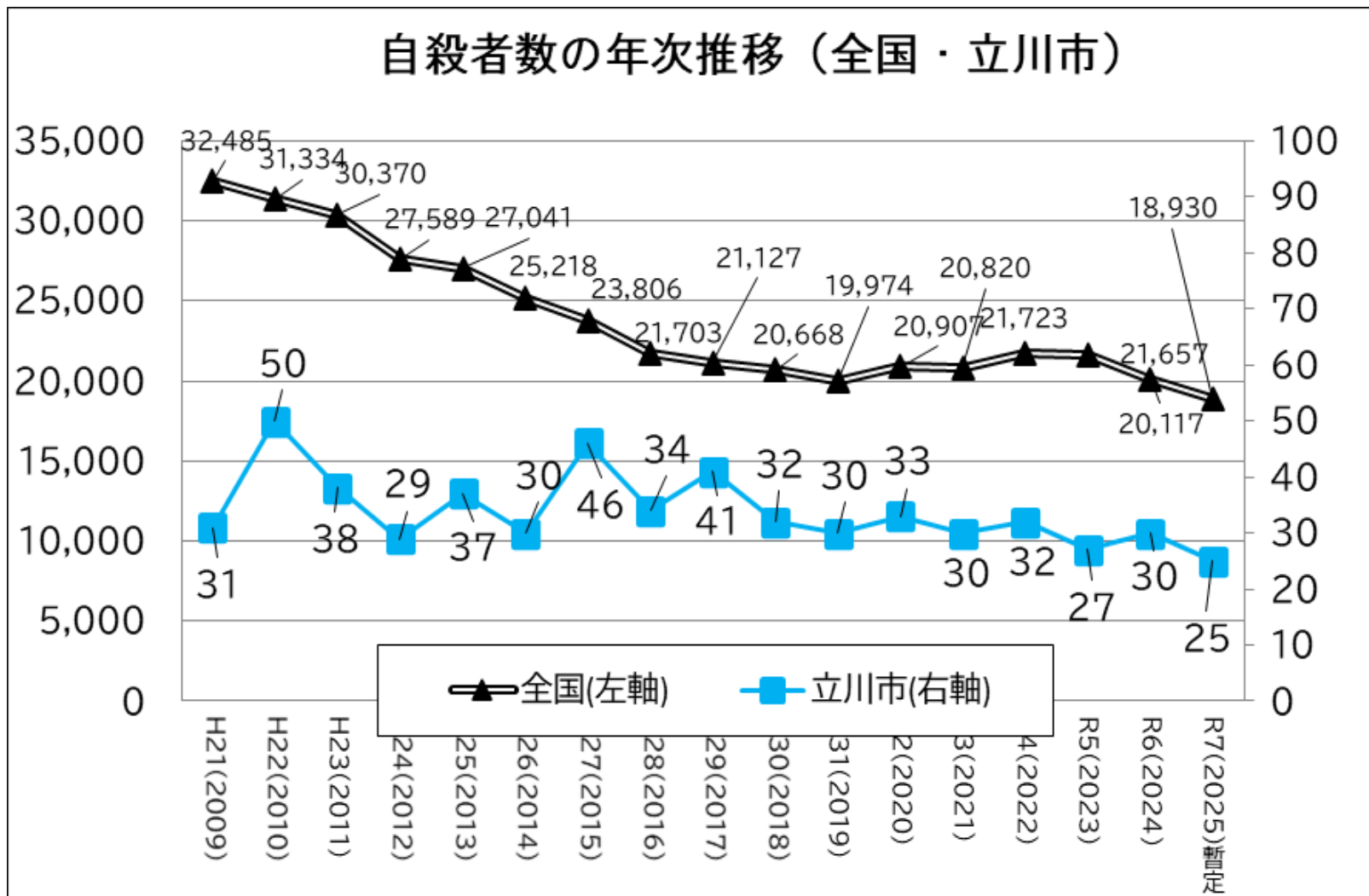


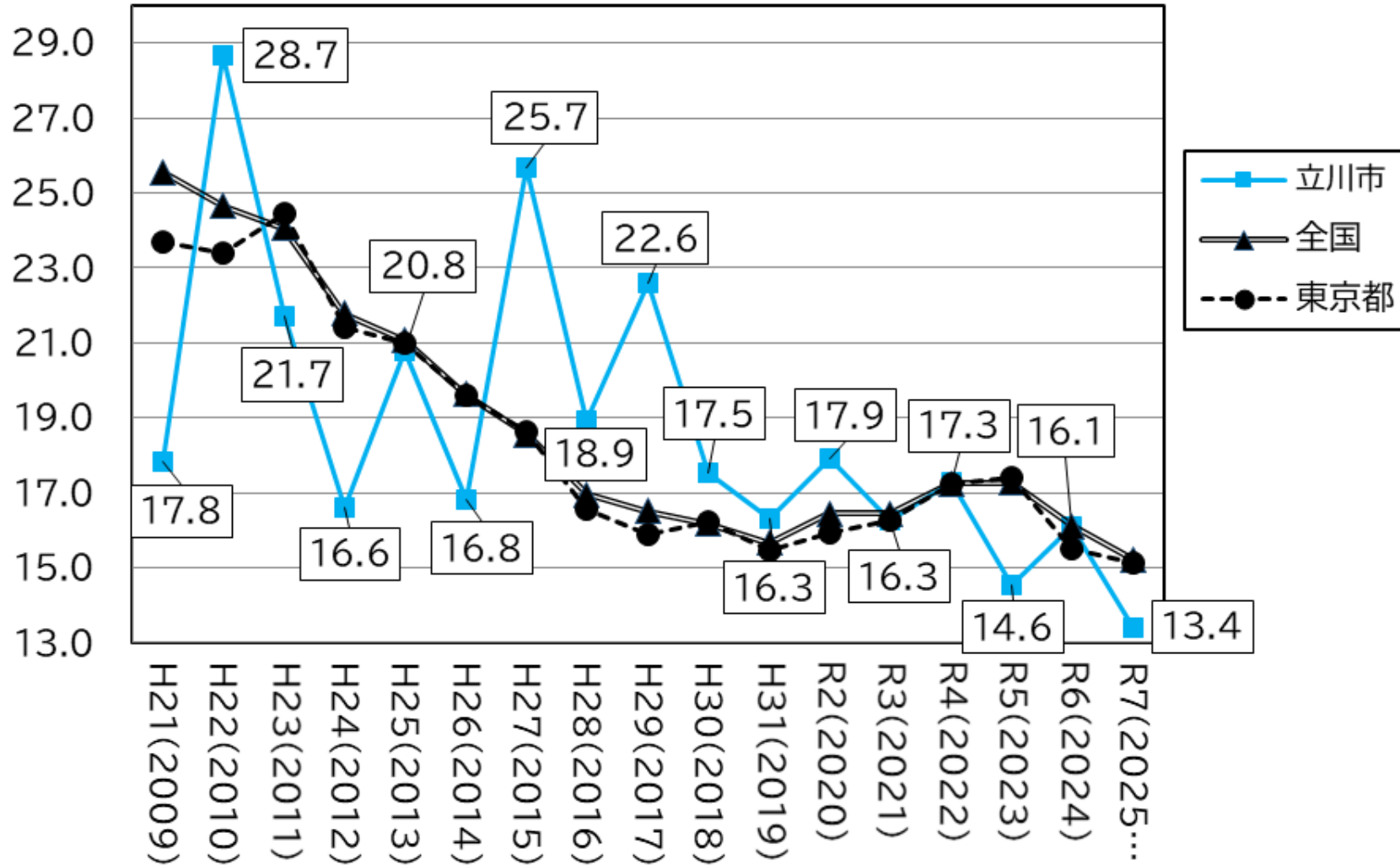
立川市の自殺者数の推移と特徴

令和8年2月6日
 第2回立川市いのち支える
 自殺総合対策連絡協議会
 資料1



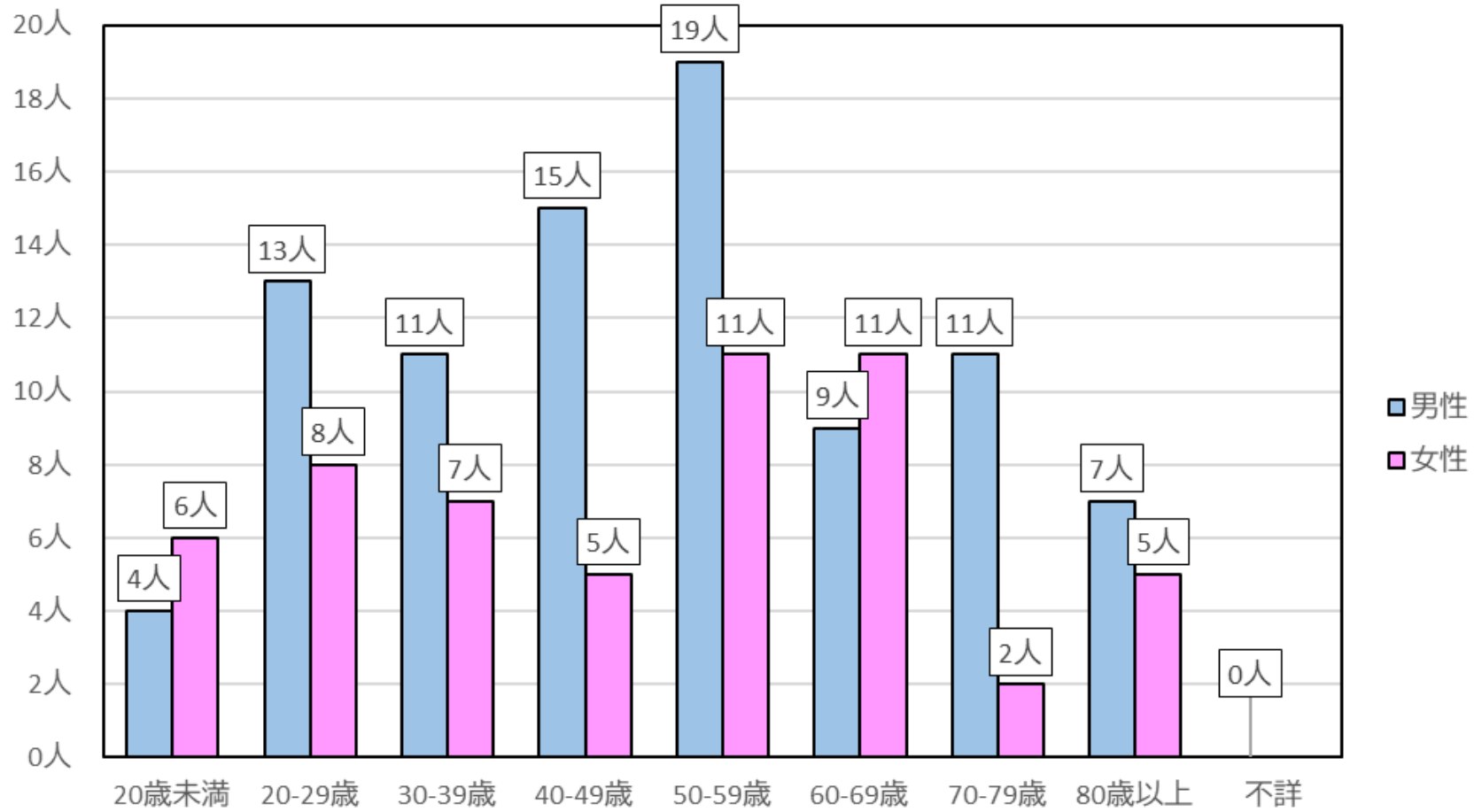
暦年	全国(左軸)	立川市(右軸)
H21(2009)	32,485	31
H22(2010)	31,334	50
H23(2011)	30,370	38
H24(2012)	27,589	29
H25(2013)	27,041	37
H26(2014)	25,218	30
H27(2015)	23,806	46
H28(2016)	21,703	34
H29(2017)	21,127	41
H30(2018)	20,668	32
H31(2019)	19,974	30
R2(2020)	20,907	33
R3(2021)	20,820	30
R4(2022)	21,723	32
R5(2023)	21,657	27
R6(2024)	20,117	30
R7(2025)暫定	18,930	25

自殺死亡率の年次推移(全国・東京都・立川市)

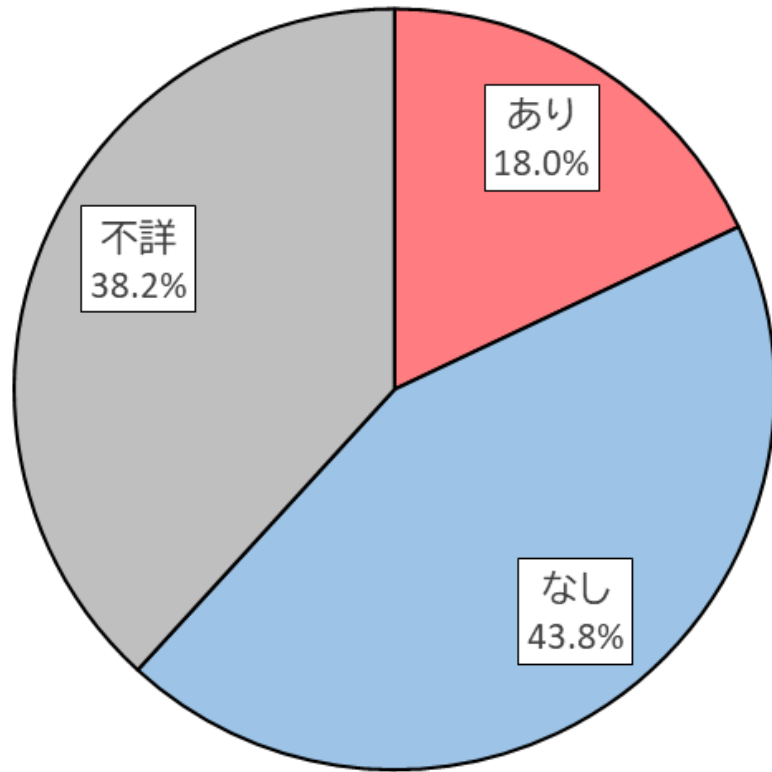


暦年	立川市	全国	東京都
H21(2009)	17.8	25.6	23.7
H22(2010)	28.7	24.7	23.4
H23(2011)	21.7	24.1	24.5
H24(2012)	16.6	21.8	21.4
H25(2013)	20.8	21.1	21.0
H26(2014)	16.8	19.6	19.6
H27(2015)	25.7	18.6	18.6
H28(2016)	18.9	16.9	16.6
H29(2017)	22.6	16.5	15.9
H30(2018)	17.5	16.2	16.2
H31(2019)	16.3	15.7	15.5
R2(2020)	17.9	16.4	15.9
R3(2021)	16.3	16.4	16.3
R4(2022)	17.3	17.3	17.2
R5(2023)	14.6	17.3	17.4
R6(2024)	16.1	16.1	15.5
R7(2025)暫定	13.4	15.2	15.1

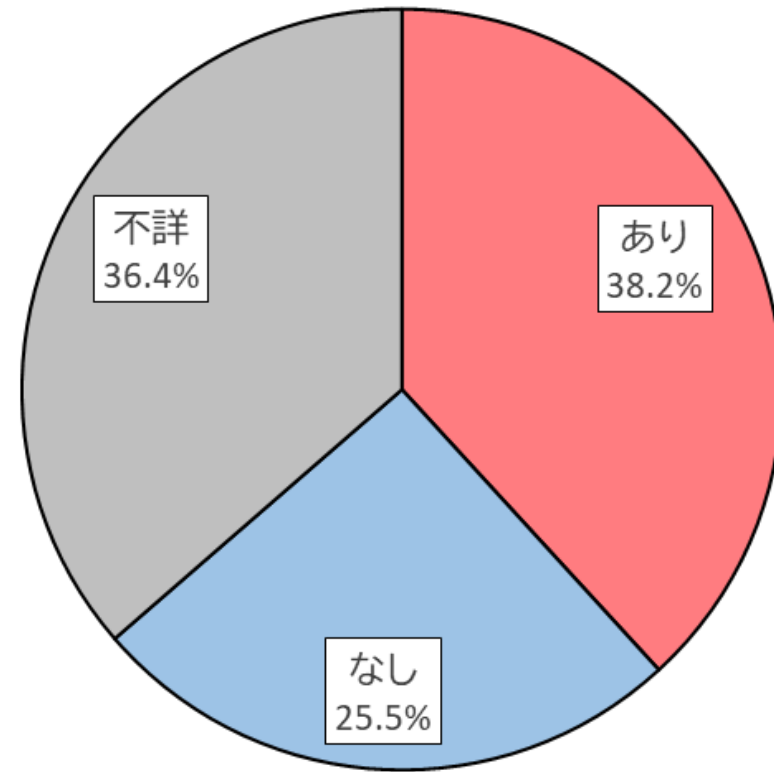
性・年代別の自殺死亡者数
(令和3(2021)年～令和7(2025)年合計)



自殺未遂歴の有無別割合
(令和3(2021)年～
令和7(2025)年合計) 男性(n=89)



自殺未遂歴の有無別割合
(令和3(2021)年～
令和7(2025)年合計) 女性(n=55)



地域の自殺の特徴(地域自殺実態プロフィール2025より)

・東京都立川市（住居地）の2020～2024年の自殺者数は合計 152 人（男性 99 人、女性 53 人）であった（厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」（自殺日・住居地）より集計）。

地域の主な自殺者の特徴（2020～2024年合計）〔公表可能〕 < 特別集計（自殺日・住居地） >

自殺者の特性上位 5 区分	自殺者数 (5年計)	割合	自殺死亡率* (10万対)	背景にある主な自殺の危機経路**
1位:男性40～59歳有職同居	21	13.8%	22.0	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
2位:男性60歳以上無職同居	15	9.9%	29.0	失業（退職）→生活苦+介護の悩み（疲れ）+身体疾患→自殺
3位:女性60歳以上無職同居	10	6.6%	12.0	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
4位:男性40～59歳無職同居	9	5.9%	118.6	失業→生活苦→借金+家族間の不和→うつ状態→自殺
5位:男性40～59歳無職独居	8	5.3%	153.4	失業→生活苦→借金→うつ状態→自殺

資料：警察庁自殺統計原票データをいのち支える自殺対策推進センター（以下、JSCP）にて個別集計

・区分の順位は自殺者数の多い順で、自殺者数が同数の場合は自殺死亡率の高い順とした。

* 自殺死亡率の算出に用いた人口は、総務省「令和2年国勢調査」就業状態等基本集計を基にJSCPにて推計したもの。

** 「背景にある主な自殺の危機経路」は、ライフリンク「自殺実態白書2013」を参考に推定したもの（詳細は付表の参考表1参照）。自殺者の特性別に見て代表的と考えられる経路の一例を示しており、記載の経路が唯一のものではないことに留意いただきたい。

付表1 地域の自殺の概要（グラフの元データ）
 自殺者の割合と自殺死亡率（人口10万対）（2020～2024年合計）〔公表可能〕

性別	年齢階級	職業	同独居	自殺者数	順位	割合	自殺死亡率 (10万対)	推定 人口*	全国 割合	全国 自殺死亡 率
男性	20～39歳	有職者	同居	6	11	3.9%	10.9	11,009.6	5.8%	15.6
			独居	6	8	3.9%	15.9	7,547.1	4.0%	28.8
		無職者	同居	7	6	4.6%	49.5	2,828.4	3.8%	48.0
			独居	4	13	2.6%	72.5	1,103.9	2.2%	93.0
	40～59歳	有職者	同居	21	1	13.8%	22.0	19,063.5	10.0%	16.2
			独居	3	18	2.0%	9.3	6,472.1	5.1%	39.8
		無職者	同居	9	4	5.9%	118.6	1,517.5	4.4%	94.1
			独居	8	5	5.3%	153.4	1,042.9	4.1%	238.7
	60歳以上	有職者	同居	2	20	1.3%	5.0	8,059.7	3.9%	12.0
			独居	3	15	2.0%	29.8	2,015.8	1.8%	33.9
		無職者	同居	15	2	9.9%	29.0	10,353.3	11.1%	27.2
			独居	4	14	2.6%	23.1	3,466.2	7.3%	84.1
女性	20～39歳	有職者	同居	5	12	3.3%	11.0	9,115.0	2.2%	7.6
			独居	3	17	2.0%	13.9	4,307.5	1.3%	15.2
		無職者	同居	2	19	1.3%	6.4	6,285.0	2.9%	15.8
			独居	1	22	0.7%	12.9	1,545.0	1.0%	39.4
	40～59歳	有職者	同居	2	21	1.3%	3.5	11,509.4	2.7%	6.7
			独居	1	23	0.7%	9.4	2,124.9	0.8%	14.6
		無職者	同居	7	7	4.6%	13.1	10,695.6	5.1%	16.4
			独居	6	8	3.9%	77.2	1,555.1	1.4%	45.2
	60歳以上	有職者	同居	3	16	2.0%	20.0	2,993.0	0.8%	5.7
			独居	0	24	0.0%	0.0	1,153.6	0.3%	8.7
		無職者	同居	10	3	6.6%	12.0	16,703.0	8.1%	11.9
			独居	6	10	3.9%	15.1	7,934.4	4.0%	20.1

資料：警察庁自殺統計原票データをJSCPにて個別集計

* 各区分の自殺死亡率の算出に用いた推定人口については、総務省「令和2年国勢調査」就業状態等基本集計を用い、労働力状態が「不詳」の人口を有職者と無職者（労働力人口のうち「家事のほか仕事」、「学業のかたわら仕事」と失業者および非労働力人口の合計）に按分した。

・本表中には20歳未満および年齢、職業、同独居の不詳を含まない。

参考表 1 生活状況別にみた背景にある主な自殺の危機経路（例） -1

男性	20～39歳	有職	同居	職場の人間関係／仕事の悩み(ブラック企業)→パワハラ+過労→うつ状態→自殺
			独居	①【正規雇用】配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺／②【非正規雇用】(被虐待・高校中退)非正規雇用→生活苦→借金→うつ状態→自殺
		無職	同居	①【30代その他無職】ひきこもり+家族間の不和→孤立→自殺 ②【20代学生】就職失敗→将来悲観→うつ状態→自殺
			独居	①【30代その他無職】失業→生活苦→多重債務→うつ状態→自殺 ②【20代学生】学内の人間関係→休学→うつ状態→自殺
	40～59歳	有職	同居	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
			独居	配置転換(昇進/降格含む)→過労+仕事の失敗→うつ状態+アルコール依存→自殺
		無職	同居	失業→生活苦→借金+家族間の不和→うつ状態→自殺
			独居	失業→生活苦→借金→うつ状態→自殺
	60歳以上	有職	同居	①【労働者】身体疾患+介護疲れ→アルコール依存→うつ状態→自殺 ②【自営業者】事業不振→借金+介護疲れ→うつ状態→自殺
			独居	配置転換／転職+死別・離別→身体疾患→うつ状態→自殺
		無職	同居	失業(退職)→生活苦+介護の悩み(疲れ)+身体疾患→自殺
			独居	失業(退職)+死別・離別→うつ状態→将来生活への悲観→自殺

・背景にある主な自殺の危機経路はライフリンク「自殺実態白書2013」を参考にしている。自殺者の生活状況別に見て代表的と考えられる経路の一例であり、記載の経路が唯一ではないことに留意。

参考表 1 生活状況別にみた背景にある主な自殺の危機経路（例） - 2

女性	20～39歳	有職	同居	離婚の悩み→非正規雇用→生活苦+子育ての悩み→うつ状態→自殺
			独居	① 非正規雇用→生活苦→借金→うつ状態→自殺 ② 仕事の悩み→うつ状態→休職/復職の悩み→自殺
		無職	同居	DV等→離婚→生活苦+子育ての悩み→うつ状態→自殺
			独居	① 【30代その他無職】失業→生活苦+うつ状態→孤立→自殺 ② 【20代学生】学内の人間関係→休学→就職失敗+うつ状態→自殺
	40～59歳	有職	同居	職場の人間関係+家族間の不和→うつ状態→自殺
			独居	職場の人間関係+身体疾患→うつ状態→自殺
		無職	同居	近隣関係の悩み+家族間の不和→うつ病→自殺
			独居	夫婦間の不和→離婚→生活苦→うつ状態→自殺
	60歳以上	有職	同居	介護疲れ+家族間の不和→身体疾患+うつ状態→自殺
			独居	死別・離別+身体疾患→うつ状態→自殺
		無職	同居	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
			独居	死別・離別+身体疾患→病苦→うつ状態→自殺

・背景にある主な自殺の危機経路はライフリンク「自殺実態白書2013」を参考にしている。自殺者の生活状況別に見て代表的と考えられる経路の一例であり、記載の経路が唯一ではないことに留意。